11/19 福井

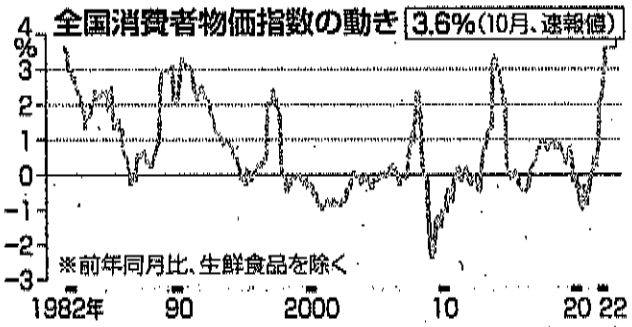
物価3・6%上昇40年ぶり

10月 消費増税時超す

総務省が18日発表した10月の全国消費者物価指数（2020年＝100、生鮮食品を除く）は、前年同月比3・6%上昇の103・4だった。第2次石油危機の最終盤でインフレが長期化していた1982年2月以来40年8カ月ぶりの伸び率となる。過去4回の消費税導入や税率引き上げ時の伸び率を上回った。上昇は14カ月連続。賃上げが広がらない中で、家計の高い負担感が裏打ちされた。

ロシアのウクライナ侵攻を背景にした資源高に加え、円安進行が輸入物価の上昇に拍車をかけ、食料品や電気代、ガス代を中心とした「値上げの秋」の影響が直撃した。

消費税に関連して物価上昇率が最も高かったのは、5%から8%に引き上げた2014年4月の3・2%だった。1989年4月の導入時は2・5%、97年4月の増税時が2・0%と続いた。



10月の主な値上げ品目と上昇率

ハンバーガー（外食）	17.9
回転ずし	12.9
あんパン	13.5
唐揚げ	11.1
チョコレート	10.0
ルームエアコン	13.3
携帯電話機	16.5

※総務省調べ、前年同月比%

10月は生鮮食品を除く食料のうち、上昇した品目が88%に上った。項目別では、生鮮食品を除く食料全体の上昇率は5・9%で81年3月以来41年7カ月ぶりの大きさとなった。総務省の担当者は、多くの食料品で10月に値上げがあったと指摘した。

回転ずしなど複数のチェーン店が値上げした外食が5・1%、ビールや発泡酒など幅広い品目の値上げがあった酒類が5・0%と目立った。

エネルギーは15・2%上昇した。うち電気代は20・9%、都市ガス代は26・8%上がった。

携帯電話通信料は1・8%の上昇に転じた。昨年の料金値下げの影響が一巡した。損害保険会社が保険料を見直し、火災・地震保険料も10・2%高くなった。一方、全国旅行支援の効果などで宿泊料は10・0%下がった。

物価変動を反映した実質賃金は前年同月と比べて6カ月連続でマイナスに沈んでいる。物価上昇に賃金が対応できておらず、家計防衛の意識が高まれば景気の腰折れにつながる。